

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 阿倍野
学校名 苗代小学校
学校長名 山本 勝巳

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・苗代小学校では、第6学年 94名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

〈概要〉

平均正答率に関して、全国平均を国語は6.2ポイント、算数は6.0ポイント、理科は1.9ポイント上回っている。

国語においては「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」、算数においては「数と計算」「変化と関係」、理科においては「生命を柱とする領域」の正答率が高い。また、国語科においても算数科においても、概して無解答率は低かった。しかし、理科においては「エネルギーを柱とする領域」「地球を柱とする領域」の正答率は全国平均を下回っている。

昨年までの課題であった問題形式が記述式の問題については、無解答率が少なくなり、平均正答率も高くなってきている傾向がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

平均正答率については、全国平均を6.2ポイント上回っている。

「読むこと」は7.6ポイント、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は5.8ポイント、「話すこと・聞くこと」は5.4ポイント上回っている。どの観点も全国平均を上回っているものの、問題形式が記述式の問題については2.2ポイントしか上回っておらず、「相手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめ、言葉の使い方を見直す」ことについては課題が見られる。

これは国語の研究授業を中心にながら、多くの授業において自分の考えを自分の言葉で表現できる子どもの育成や、ペア学習やグループ学習を通して話し合う活動を多く取り入れていることが起因していると考えられる。その結果、「話すこと・聞くこと」に関する力が身についてきている。また、多読・速読・読み聞かせなどの豊かな活動をベースに読書活動を図ることで、「読むこと」に関する力も伸びてきている。

一方、自分の考えが伝わるように理由を書いたり、工夫して表現したりすることについては課題が見られる。今後も自分の考えを分かりやすくまとめて伝えられる力がつくよう取組を重ねていく必要がある。

〔算数〕

平均正答率は全国平均を6.0ポイント上回っており、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5つの領域すべてが全国平均を上回っている。

これは、今までの全国学力・学習状況調査の分析を基にして、基礎基本の学習を系統性を大切にしながら、より丁寧に学習を進めてきた成果であると考える。しかし、「図形」の中から台形を選ぶ問題では、-6.2ポイントであった。三角形・四角形・多角形・円形をはじめとする「図形」については、それぞれの性質を基に事象を判断することに課題が見られる。

特に、三角形や四角形の中でもたくさんの種類が出てくる图形については、それぞれの图形の定義や性質を理解して説明できる力をつける必要がある。定義や性質を理解できると、面積や体積などを求めるための式などの理解も深まり、今まで学んできたことを活かしながら問題を解いていくようになると考える。

〔理科〕

平均正答率は全国平均を1.9ポイント上回っており、「粒子を柱とする領域」は2.0ポイント、「生命を柱とする領域」は6.9ポイント、全国平均を上回っている。しかし、「エネルギーを柱とする領域」は-0.4ポイント、「地球を柱とする領域」は-0.2ポイントという結果で全国平均を下回っている。

特に、「エネルギーを柱とする領域」では、実験結果を覚えるだけの学習にとどまり、「なぜそうなるか」を言葉で説明する力が不足しているところに課題が見られる。また「地球を柱とする領域」では、観察・記録から規則性を見つける力が不足しているところにも課題が見られる。今後、「実験・観察→結果→考察」の筋道を立てて説明する力についていく必要がある。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問には、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と感じている児童が多い。また、「友達関係に満足していますか」の質問には、「満足している」「どちらかといえば、満足している」と回答している児童が多かった。しかし、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問には、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と感じている児童が少なかった。

全国平均や大阪府平均と比較してみると本校児童は、学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）から勉強している時間が全国平均や大阪府平均よりも長い。また、読書をしたり、インターネットを活用しての学習をしたりする時間も長い。

また「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方につづいてできていますか」で肯定的な回答が86.1%と高く、全国平均・大阪府平均を上回っている。子どもたちが友だちとの関わりの中で自分の考えを深められることは、さらなる児童の学習意欲の向上につながっていると考える。

これに対し、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかつた点を見直し、次の学習につなげることができますか」についての肯定的な回答は81.4%で、全国平均・大阪府平均よりも若干上回っているものの、よく分からなかつた点をそのままにするのではなく、きちんと理解しながら次の学習につなげていく姿勢を身につけさせていく必要がある。

国語については、「国語の勉強は好きですか」という問い合わせに対する否定的の回答は36.1%、「国語の勉強は得意ですか」という問い合わせに対する否定的の回答は38.4%であった。また「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という問い合わせに対する否定的の回答の児童は2.4%であった。

「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか」に対して否定的な回答は17.5%だった。また「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」についての否定的な回答が23.2%であった。今後は、自分の考えを相手に伝える力をつけたり、必要な情報を見つけて整理したりできるよう、個別の声掛けをしながら学習を進めていく。

算数については、「算数の勉強は好きですか」という問い合わせに対する否定的の回答は36.0%、「算数の勉強は得意ですか」に対して否定的な回答は38.4%だった。また「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての否定的な回答が7.0%であった。

「算数の問題の解き方が分からぬときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に対して否定的な回答は12.8%だった。また「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対しての否定的な回答は16.3%であった。

これらの結果から、児童は算数の必要性を感じているようだが、これから学習の中で、学んだことを日常生活に活かしたり、新たな発想で考えたりする力を身につけさせていく必要がある。今後、デジタル教材やインターネットなどを活用しながら、算数が苦手な児童が課題を克服していくように基礎基本の力を身につけさせていくようにする。また、学習の中での交流を大切にしながら、友だちと楽しく学べる環境づくりもしていく。

理科については、「理科の勉強は好きですか」という問い合わせに対する否定的の回答は46.5%、「理科の勉強は得意ですか」に対して否定的な回答は46.5%だった。また「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対しての否定的な回答は32.6%であった。

これらの結果から、理科の学習が苦手で将来の必要性を感じていない児童が多いと考えられる。知識・技能を問う基礎的な部分は比較的に身についているが、活用・思考・判断・表現の力が弱いと感じられる。今後は、単に苦手分野を補うだけではなく、理科的な見方・考え方を育成することが大切である。「予想→実験→結果→考察→再考」の流れを大切にしながら、問題を発見する力・読み取り分析する力・記述表現する力を身につけさせていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

○国語の学習では、言葉の力に着目し説明的文章を読む中で、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力や、文章や資料から必要な情報を整理して活用する力の育成をしていく。またペアやグループで意見を交流しながら考えを整理して書く活動を取り入れ、段階的に表現力を高めていく。さらに図表や資料を用いた読み解きや要約の活動を通して、読み取った情報を根拠に考える力を育てていく。

今後も、主幹学校司書と連携しながら、発表・読み聞かせ・読書活動など、学習の成果を実感できる場を設けながら、国語への興味・関心や学習意欲の向上を図りながら、思考力・判断力・表現力のバランスのとれた育成をめざす。

○算数の学習では、基礎基本の定着と応用力・思考力の育成、学習意欲の向上を柱として取り組んでいく。計算や図形、文章題などの基礎問題を繰り返し学習を進めていく中で、苦手な単元を含め個別指導やデジタル教材を活用して丁寧に補強していく。また、問題の解き方が分からぬときは多様な方法を考える活動や、学んだことを日常生活に活かす課題を取り入れながら、応用力を高めさせていく。さらに、友だちとのペア学習やグループ学習を通して交流を深め、発表やチャレンジ問題で成果を実感できる機会を設けることで、算数への興味・関心と学習意欲の向上を図る。

○理科の学習では、理科の勉強が好きではない、得意ではない児童が半分近くいて、学習に対して苦手意識を持っている児童が多い。一方、基礎的な知識や技能は身についているものの、学んだことを活用する力や思考・判断・表現の力には課題がある。今後は、苦手分野の補強に加え、理科的な見方・考え方の育成に重点を置いていく。また「予想→実験→結果→考察→再考」の学習の流れを重視しながら、問題発見力や観察・分析力、記述・表現力を段階的に身につけさせることで、実践的な学習を通じて理科的思考力と学習意欲の向上を図っていく。

○「主体的・対話的で深い学び」の視点から、児童が主体的に考え、友だちと対話しながら学びを深める活動を重視していく。また自分の考えを整理して表現し、問題解決や観察・分析を通して思考を深める力を育てることで、基礎的な力の定着とともに思考力・判断力・表現力の向上を図っていく。さらに、学びの過程で成果を実感し、意欲を高める活動の充実にも取り組んでいく。

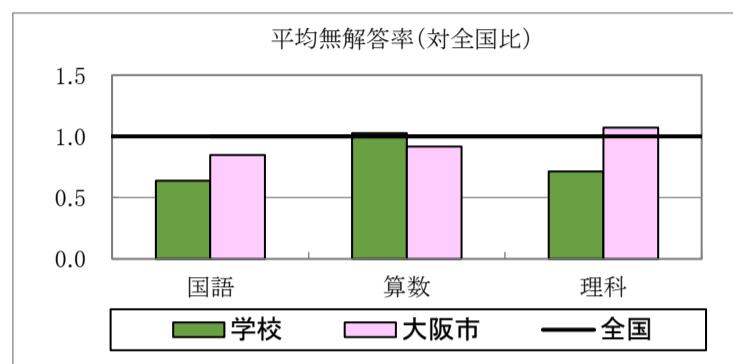
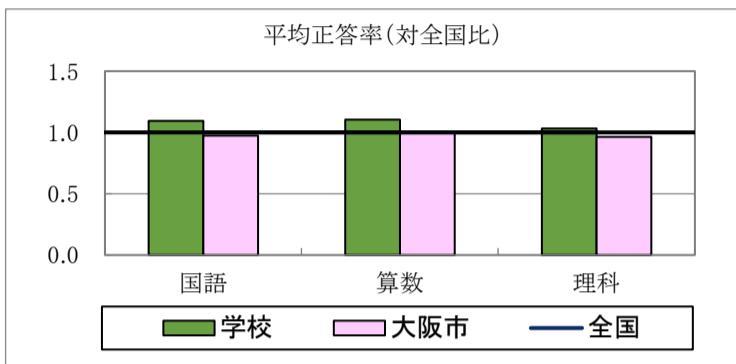
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	73	64	59
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	2.1	3.7	2.0
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



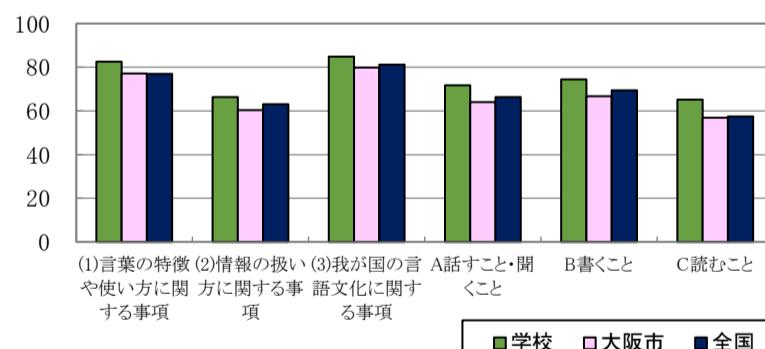
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	82.6	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	66.3	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	84.9	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	71.7	64.0	66.3
B 書くこと	3	74.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	65.1	56.9	57.5

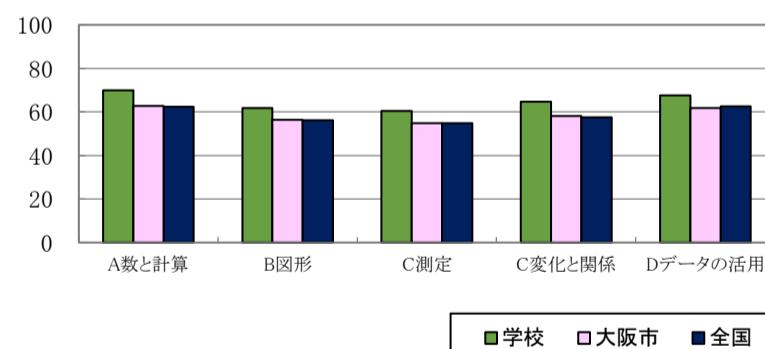
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	69.9	62.7	62.3
B 図形	4	61.9	56.4	56.2
C 測定	2	60.5	54.9	54.8
C 変化と関係	3	64.7	58.2	57.5
D データの活用	5	67.7	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



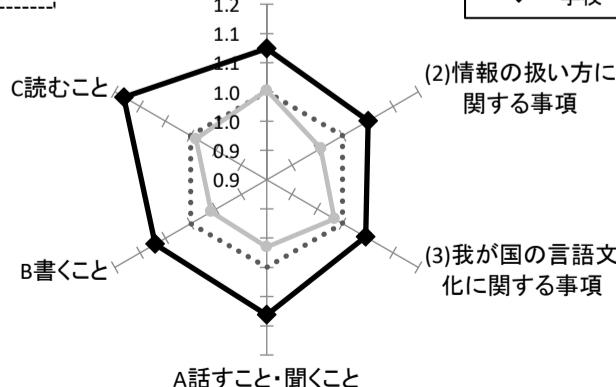
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

(1)言葉の特徴や使
い方に関する事項

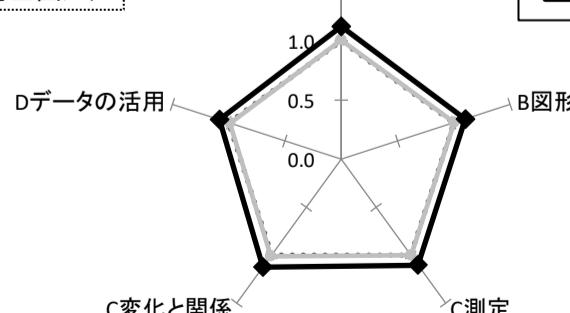
..... 全国
— 大阪市
— 学校



算数
領域別正答率
(対全国比)

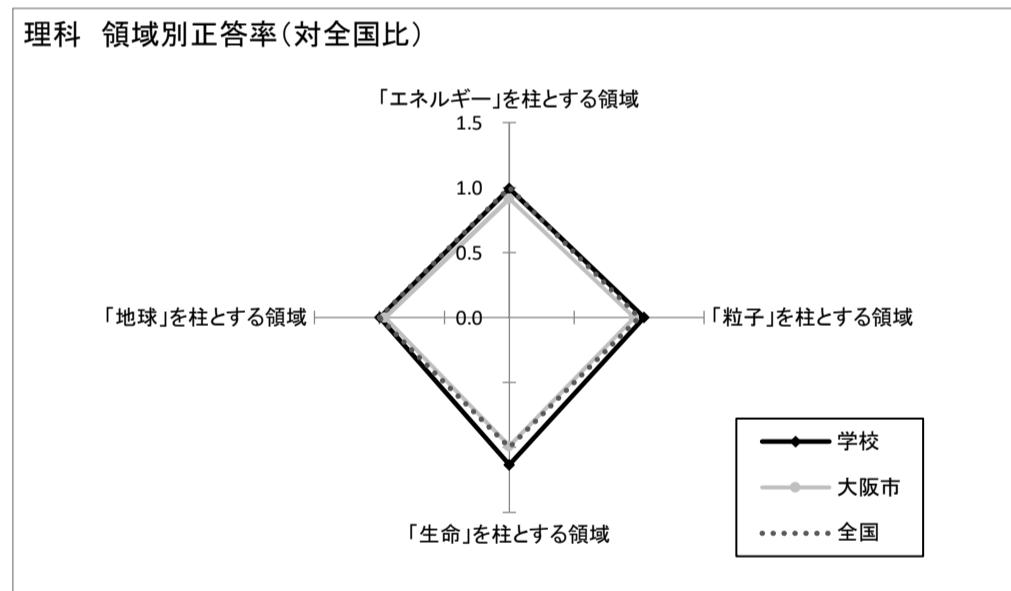
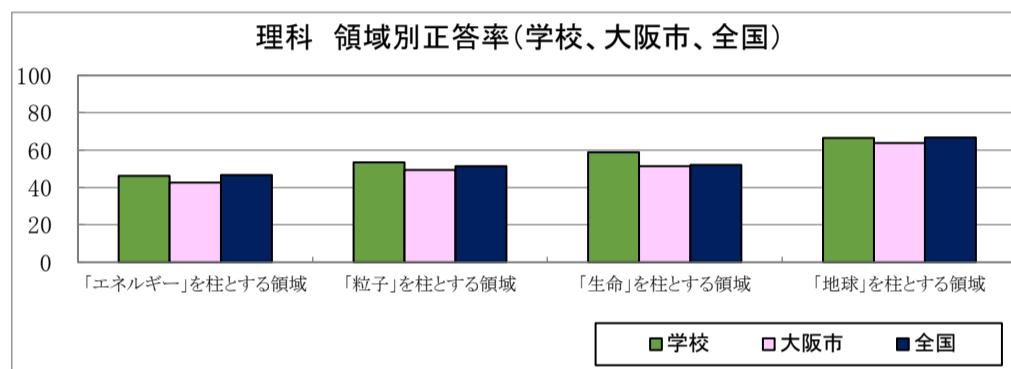
A数と計算

..... 全国
— 大阪市
— 学校



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	46.3	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	53.4	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	58.9	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	66.5	63.8	66.7



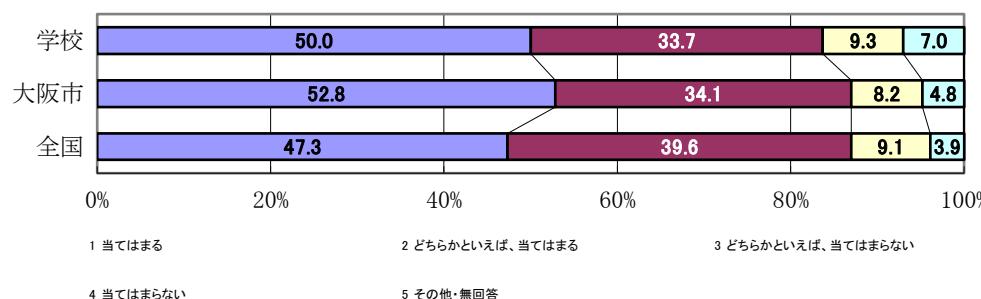
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

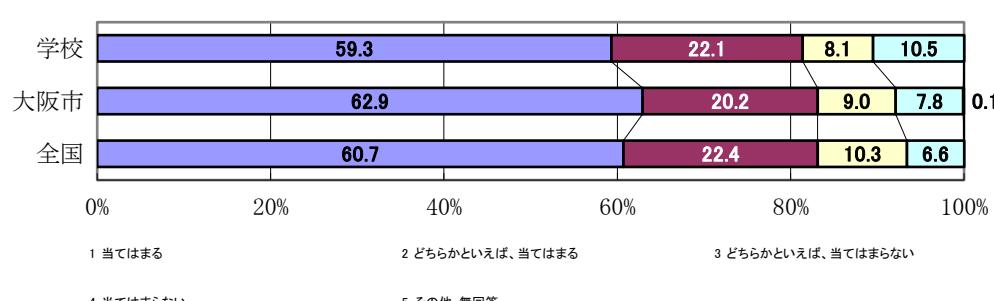
5

自分には、よいところがあると思いませんか？



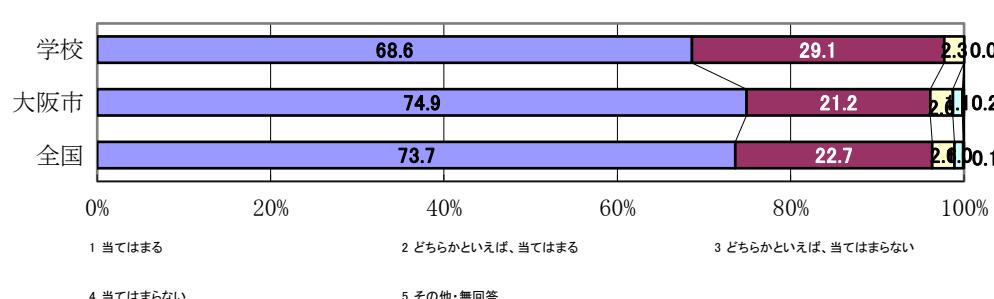
7

将来の夢や目標を持っていますか？



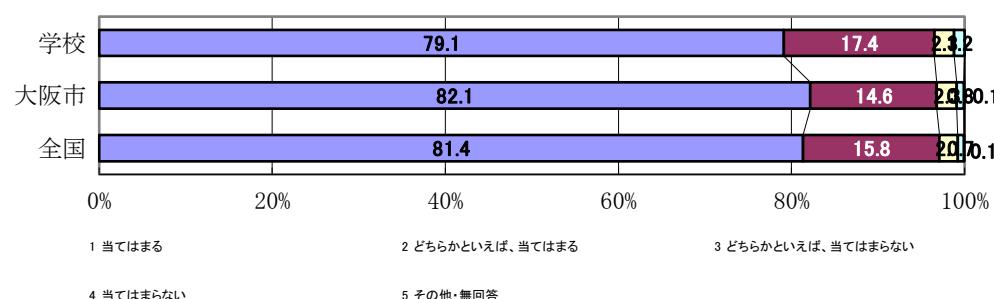
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか？



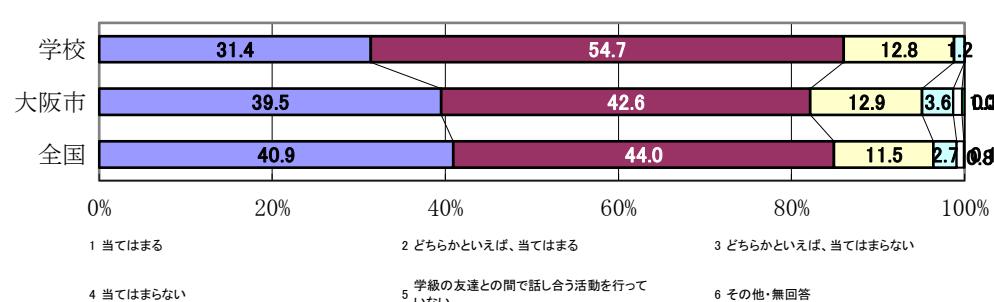
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか？



学校質問より

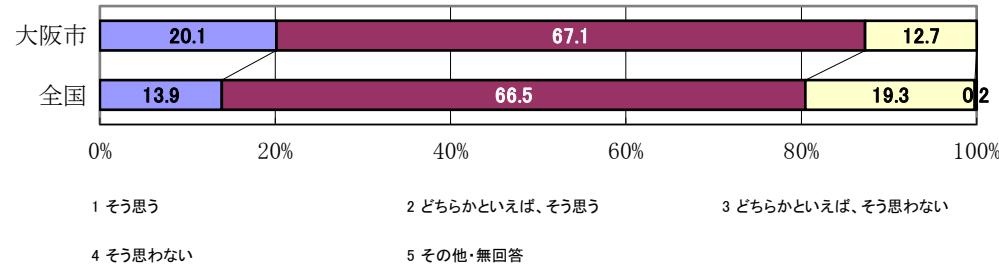
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

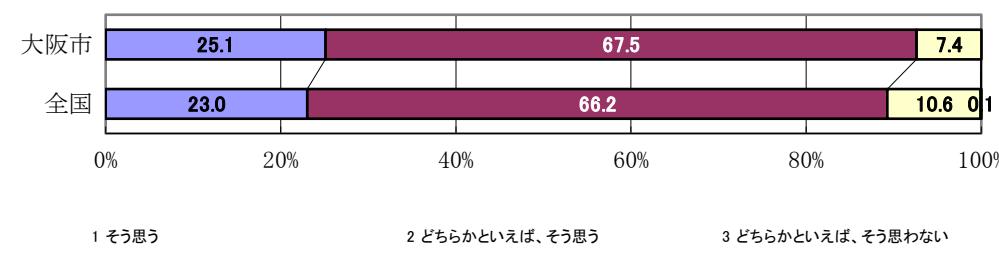
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

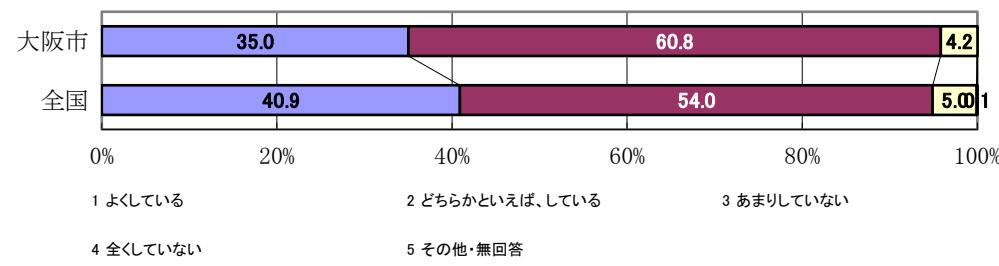
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

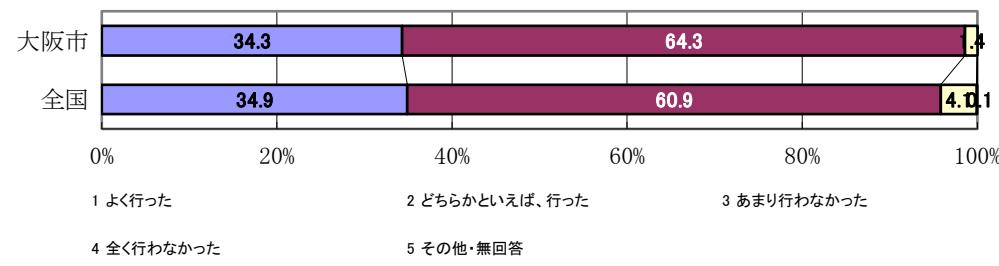
学校 「どちらかといえば、している」を選択



43

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択

